

第3章 計画の目標

3.1 目指す環境像

本市には、国内有数の原生自然が残る朝日連峰があり、それを水源とする三面川や荒川等の清流が流れ、その清流の恩恵により豊かな農村環境と水産資源がもたらされてきました。

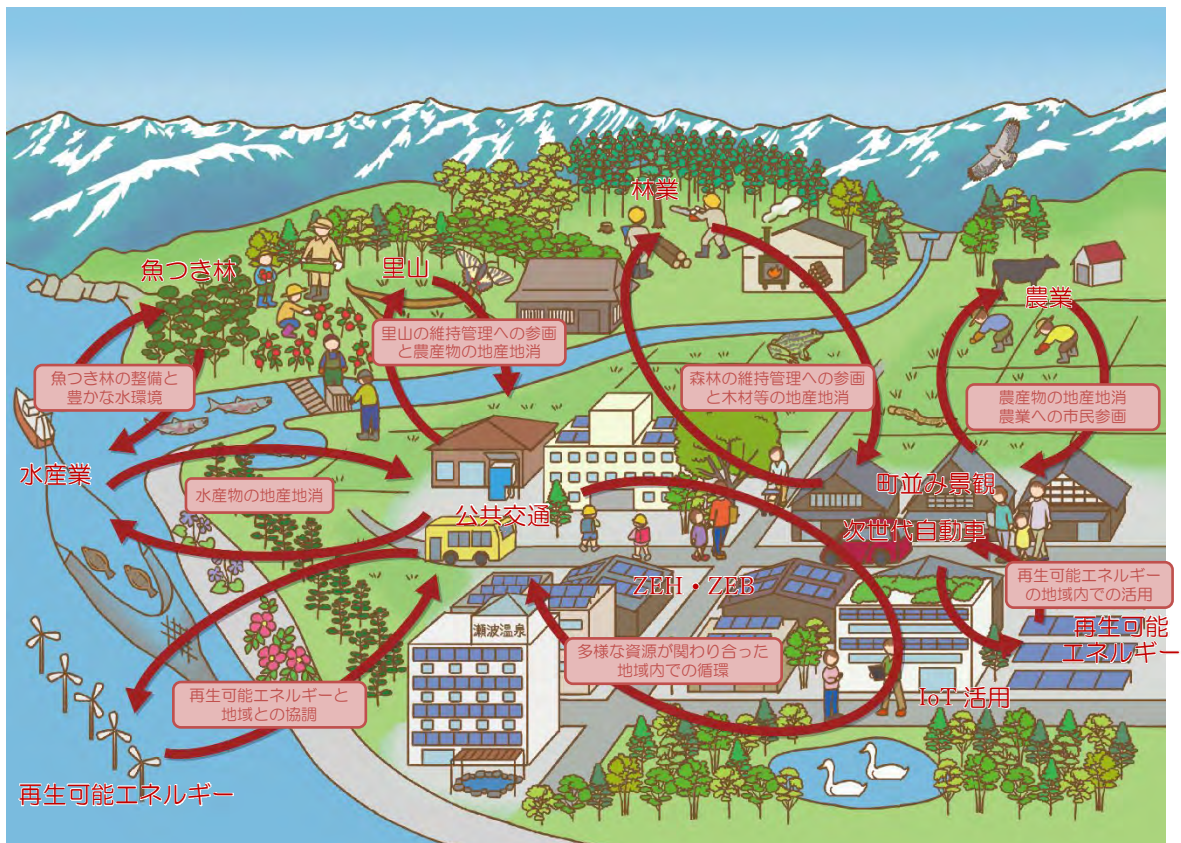
このように豊かな自然に囲まれた中で、私たちの生活は豊かさを求めて、環境への負荷を増加させておりますが、これからは地球温暖化など地球規模での環境問題とも向き合っていく必要があります。

そのため、豊かな自然を守っていくことのみならず、より広い視野で、より良い環境を次の世代に引き継いでいくことが重要であり、自立・分散型の社会を形成しつつ、近隣地域等と地域資源を補完し支え合う「地域循環共生圏」の体現と、人間活動が環境との調和しながら自然との共生の実現を目指して発展する持続可能な社会の構築を図っていかなくてはなりません。

以上のことから、目指す環境像を次のとおり設定します。

<目指す環境像>

豊かな自然と調和しながら発展して共生する 循環共生型社会のまち



<目指す環境像のイメージ>

※1 地域循環共生圏とは、地域ごとに特徴のある資源が循環する自立・分散型の社会を形成しつつ、他地域と特性に応じて地域資源を補完し支え合うことにより、地域の活力が最大限に発揮されるという考え方です。

※2 循環共生型社会とは、地域循環共生圏を実現するために目指す持続可能な社会の姿のことです。

3.2 基本目標

本計画では、目指す環境像を実現するための目標として、本市の現状を踏まえ、下記の5つの基本目標を設定します。

表 3-1 基本目標・姿勢および基本的視点・方向性

基本目標・姿勢	基本的視点・方向性
市の自然豊かな環境の後世への継承	<ul style="list-style-type: none"> ・現行計画の目標を継続しつつ、田園や里山⁵⁶、原生自然など村上市に特徴的な自然環境に対する市民意識の向上を図るための方向性も明示
持続可能な循環共生型の社会	<ul style="list-style-type: none"> ・従来の環境保全対策に加えて、持続可能な農林水産業に係る施策の方向性との関係性・結びつきを新たに提示 ・計画の目玉となる施策において、地域循環共生圏等の分野横断的視点を新たに位置づけ
地球規模の気候変動等を意識した環境対策の展開	<ul style="list-style-type: none"> ・近年高まりつつある地球温暖化や気候変動の問題に対する問題認識や、防災上の安全面・安心面での市民意識を踏まえた環境適応策も含めた方向性の明示 ・洋上風力発電事業や木質バイオマスなどの再生可能エネルギーなどの新たな産業との調和・共存・発展に向けた方向性の明示
歴史・伝統と美しい自然を活かした景観づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・村上市らしさを象徴する山川海の豊かな自然景観、歴史的な町並み景観、眺望景観の保全を図るための方向性の明示 ・地域に根差した村上市らしい景観の形成を図るための方向性の明示
市民や産業とともに発展する環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・村上市の環境面の一層の向上と社会面・経済面等の地域課題に対して環境側面からアプローチするための方向性の明示 ・環境活動など、市民・事業者などが一体となって参画していくための方向性の明示

長期目標として（2050年を目指して）

近年、地球温暖化が原因とみられる気候変動の影響により、世界規模で自然災害が頻発しています。

2015年に合意されたパリ協定では、「産業革命前から平均気温上昇の幅を2℃未満とし、1.5℃に抑えるよう努力する」との目標が国際的に広く共有され、この目標を達成するためには、「2050年までに二酸化炭素の実質排出量をゼロにする」ことが必要とされています。

村上市においても、この地域のかげがえのない豊かな自然環境を守るとともに、我々一人一人が将来の世代へ引き継いでいく責務を負っています。

将来の目指すべき環境像として掲げる「豊かな自然と調和しながら発展して共生する循環共生型社会のまち」を実現するためにも、2050年までに温室効果ガス排出ゼロの達成に向けた取組を推進していきます。